



# アクセス数分析

## SCE・Net 小松昭英

E-154

発行日 2021.12.23

今年も、コロナ禍の終息を見ることなく、年の暮れを迎えることになってしまった。年末の締めくくりとして、「アクセス数分析」結果（アクセス数”0”を除く）を表1に、対比のために昨年8月の分析結果(E-131)を表2に、両分析結果の関連を図1に示す。

表1 アクセス数分析（上位23エッセイ）

No.	自然検索結果	掲載年月日	検索日時 2021.12.09.15		
			検索総数	アクセス数	比率
1	システム構築による課題解決	19.07.11	135,000,000	28,512,000	0.628
2	ビジネスエンジのすすめ	20.11.16	14,600,000	4,638,420	0.102
3	言葉の壁が崩壊しても	19.06.16	38,600,000	4,110,900	0.091
4	エッセイのアクセス数	20.08.27	8,060,000	1,702,272	0.037
5	言葉の壁の崩壊	19.05.08	28,100,000	1,309,460	0.029
6	（エッセイ）ファイナンス思考	20.10.26	34,500,000	1,179,900	0.026
7	人工知能の壁	19.10.10	12,200,000	923,540	0.020
8	（エッセイ）デザイン経営	20.05.28	8,320,000	886,080	0.020
9	論考自己評価	20.12.04	18,700,000	871,420	0.019
10	（エッセイ）語彙の壁	19.09.06	1,740,000	367,488	0.008
11	システム思考とプロセス思考	20.08.12	3,780,000	226,044	0.005
12	システム思考とファクトフル思考	21.08.07	1,170,000	213,174	0.005
13	「世界史の構造」読後感	21.09.22	1,240,000	93,868	0.002
14	ビジネスアセスメントから見えてくる食文化の変化	20.03.13	426,000	89,971	0.002
15	サイバースペースと検索エンジン	19.12.05	302,000	63,782	0.001
16	（エッセイ）5G時代の到来か	20.01.24	300,000	63,360	0.001
17	続・コロナ禍＋ズーム化の衝撃	20.07.06	366,000	47,740	0.001
18	再考 プロセス	21.10.31	220,000	46,464	0.001
19	システムズエンジニアリング雑感	19.05.24	71,400	22,684	0.000
20	仮想空間の誕生	21.09.09	484,000	22,554	0.000
21	（エッセイ）見えてきたSCE・Netの世界	19.11.15	48,600	10,264	0.000
22	ビジネスアーキテクチャ	20.12.15	114,000	8,630	0.000
23	雑感デジタルトランスフォーメーション	21.08.18	9,780	513	0.000
	合計	-	308,351,780	45,410,530	1.000

まず、アクセス数合計が、この約1年強で、 $45,410,530/18,695.849=2.4$ 倍になるとともに両表で1位を占めている「システム構築による課題解決」が、何と  $28,512,000/5,980,470=4.8$ 倍にもなっている。何はともあれ、これ程に注目されるのは光栄の至りである。

また、前回にはなかった「ビジネスエンジのすすめ」が2位に入っているのも、筆者が目指している研究テーマなので喜ばしい限りである。

表 2 アクセス数分析 (2020)

No.	自然検索結果	発行日	アクセス数			
			2020	2020	2020	2020
			04.14.14	05.18.14	07.15.14	08.13.15
1	システム構築による課題解決	19.07.11	8,891,360	0	2,413,880	5,980,470
2	(エッセイ) デザイン経営	20.05.28			2,280,960	3,717,090
3	言葉の壁が崩壊しても	19.06.16	2,808,468	2,481,237	2,821,176	2,894,247
4	コロナ禍+ズーム化の衝撃	20.06.12			31,844	2,230,254
5	言葉の壁の崩壊	19.05.08	1,681,706	1,546,878	1,809,246	1,415,694
6	人工知能の壁	19.10.10	331,215	322,695	378,075	739,100
7	サイバースペースと検索エンジン	19.12.05	247,315	425,718	299,273	578,214
8	技術とビジネスの交差点	20.03.30	464,640	2,109,528	543,150	537,825
9	語彙の壁	19.09.06	1,178,667	166,362	401,505	354,816
10	偶然の連鎖	18.07.23	333,426	568,683	89,326	57,784
11	続・コロナ禍+ズーム化の衝撃	20.07.06			26,846	54,009
12	(エッセイ) 我が国、日本の生産性	20.04.22		0	43,296	52,166
13	ビジネスアセスメントから見える食文化変化	20.03.13	355,824	49,244	39,077	50,197
14	(エッセイ) 5G時代の到来か	20.01.24	0	16,892	0	23,732
15	(エッセイ) パソコン事始め	15.07.28	0	3,870	8,532	5,174
16	システムズエンジニアリング雑感	19.05.24	4,067	1,280	1,439	1,766
17	(エッセイ) 見えてきたSCE・Netの世界	19.11.15	38,650	56,233	5,935	1,668
18	(エッセイ) OR小史	20.05.28			0	1,643
	合計		16,764,232	8,164,807	11,506,999	18,695,849

以下、同様に、表 2 から表 1 を見ると、図 1 に示すように、

- 2 位「(エッセイ) デザイン経営」は 8 位
- 3 位「言葉の壁が崩壊しても」は今回も同じ 3 位
- 4 位「コロナ禍+ズーム化の衝撃」は今回にはない
- 5 位「言葉の壁の崩壊」は、今回も 5 位
- 6 位「人工知能の壁」は、今回は 7 位
- 7 位「サイバースペースと検索エンジン」は、今回は 15 位
- 8 位「技術とビジネスの交差点」はない
- 9 位「語彙の壁」は 10 位
- 10 位「エッセイ 語彙の壁」は前回では 9 位
- 11 位「続・コロナ禍+ズーム化の衝撃」は 17 位
- 12 位「(エッセイ) 我が国、日本の生産性」はない
- 13 位「ビジネスアセスメントから見える食文化変化」は 14 位
- 14 位「(エッセイ) 5G 時代の到来か」は 16 位
- 15 位「(エッセイ) パソコン事始め」はない
- 16 位「システムズエンジニアリング雑感」は 19 位
- 17 位「(エッセイ (見えてきた SCE・Net の世界) は 21 位
- 18 位「(エッセイ) OR 小史」はない

図 1 両分析結果の関連

No.	自然検索結果	掲載 年月日	20.08.13		No.	自然検索結果	掲載 年月日	21.12.09
			アクセス数					アクセス数
1	システム構築による課題解決	19.07.11	5,980,470	→	1	システム構築による課題解決	19.07.11	28,512,000
2	(エッセイ) デザイン経営	20.05.28	3,717,090		2	ビジネスエンジのすすめ	20.11.16	4,638,420
3	言葉の壁が崩壊しても	19.06.16	2,894,247	→	3	言葉の壁が崩壊しても	19.06.16	4,110,900
4	コロナ禍+ズーム化の衝撃	20.06.12	2,230,254		4	エッセイのアクセス数	20.08.27	1,702,272
5	言葉の壁の崩壊	19.05.08	1,415,694	→	5	言葉の壁の崩壊	19.05.08	1,309,460
6	人工知能の壁	19.10.10	739,100	→	6	(エッセイ) ファイナンス思考	20.10.26	1,179,900
7	サイバースペースと検索エンジン	19.12.05	578,214	→	7	人工知能の壁	19.10.10	923,540
8	技術とビジネスの交差点	20.03.30	537,825	→	8	(エッセイ) デザイン経営	20.05.28	886,080
9	語彙の壁	19.09.06	354,816	→	9	論考自己評価	20.12.04	871,420
10	偶然の連鎖	18.07.23	57,784	→	10	(エッセイ) 語彙の壁	19.09.06	367,488
11	続・コロナ禍+ズーム化の衝撃	20.07.06	54,009	→	11	システム思考とプロセス思考	20.08.12	226,044
12	(エッセイ) 我が国、日本の生産性	20.04.22	52,166	→	12	システム思考とファクトフル思考	21.08.07	213,174
13	ビジネスアセスメントから見える食文化変化	20.03.13	50,197	→	13	「世界史の構造」読後感	21.09.22	93,868
14	(エッセイ) 5G時代の到来か	20.01.24	23,732	→	14	ビジネスアセスメントから見てくる食文化の変化	20.03.13	89,971
15	(エッセイ) パソコン事始め	15.07.28	5,174	→	15	サイバースペースと検索エンジン	19.12.05	63,782
16	システムズエンジニアリング雑感	19.05.24	1,766	→	16	(エッセイ) 5G時代の到来か	20.01.24	63,360
17	(エッセイ) 見えてきたSCE・Netの世界	19.11.15	1,668	→	17	続・コロナ禍+ズーム化の衝撃	20.07.06	47,740
18	(エッセイ) O R小史	20.05.28	1,643	→	18	再考 プロセス	21.10.31	46,464
	合計		18,695,849			合計	-	45,345,884

となっている。そして、

- 「ビジネスエンジのすすめ」
- 「エッセイのアクセス数」、
- 「(エッセイ) ファイナンス思考」、
- 「論考自己評価」、
- 「システム思考とプロセス思考」、
- 「システム思考とファクトフル思考」、
- 「『世界史の構造』読後感」、
- 「再考プロセス」

の7つ(約3分の1)は、前回の分析(2020.08.13)後に発表されたものである。

また、順位が変わらなかったのは、

- 1位「システム構築による課題解決」(28,512,000)
- 3位「言葉の壁が崩壊しても」(4,110,000)
- 5位「言葉の壁の崩壊」(1,309,460)

であるが、この今回の3位と5位のアクセス数を加算すると”5,420,360”となり、今回の2位「ビジネスエンジのすすめ」(4,538,420)を超えることになる。

「言葉の壁が崩壊しても」は、やはり国際的に最も通用している「英語」での発信にはとても及ばないことを、「システム構築による課題解決」の例を引いて述べたもので、両者が相互にアクセス数の増加に寄与しているようにも思われる。本エッセイを書きながら気が付いたことではあるが。

さらに、「システム構築による課題解決」については、表 2 に示すように、2020.08.18 日にアクセスできなかったことがあった。その後 2020.10.15 には回復したが、元の状態に戻るのに時間がかかっている。考え過ぎかもしれないが、何らかの妨害があったように思われる。元々当該エッセイは、2012 年 3 月に開催された講演会を話題にして、2019 年 7 月に公表したもので、もし妨害されたとすれば、これも光栄の至りと言えよう。

また、「コロナ禍＋ズーム化の衝撃」は、今回番外になっている上に、「続・コロナ禍＋ズーム化の衝撃」も 11 位から 17 位に順位を下げしており、社会的関心の低下を反映していると考えられる。

ついで、「ビジネスアセスメントから見えてきた食文化の変化」は、言われてみれば、わざわざビジネスアセスメントするまでもなく自明のことではあるが、定量的に示すことで、改めて納得できるのではなかろうか。また、事業企画をする際の「他山の石」にもなるのではなかろうか。

さらに、「我が国、日本の生産性」(E-120)(2020.04.22)は、多数の検索の中に埋没してしまい、アクセス数を算出できなかった。すなわち、当初は「日本の生産性」というタイトルにしたが、全く検索されなかったので、「我が国」という言葉を追加して再検索し、検索数そして当然アクセス数も増加したが、それでもアクセス数を算出できるほどの増加にはならなかった。

この「我が国の生産性の低さは公知の事実である」が、そのまま議論されることなく、放置されているかのようである。その遠因は、多分スターンシュワート社(2001)が「EVA による価値創造経営—その理論と実際」で指摘しているように、企業の経営指標として、投資回収を含まない「経常利益」が慣用されており（「ファイナンス思考(E-133)」）、それが間違っていることに気付かないからであろう。

何れにしても、この分析結果から、「システム構築による課題解決」が圧倒的に、次いで「言葉の壁」と「人工知能」が、求められていることがわかる。

これは、言い換えれば、私達は、何時も何かしら多く「課題」を抱えているとともに、一方でグローバル時代を迎えて「言葉の壁」を感じること多くなり、さらにもう一方で、我々の思考能力を駆使・展開するのに限界あるいは煩わしさを感じ、人工知能に依存あるいは期待しているのではなかろうか。

そして、この「アクセス数分析」は、結果的に、我々が住んでいるこの世の中の一つの切断面を示しているのではなかろうか。

なお、表中のエッセイのタイトルに、わざわざ「(エッセイ)」を挿入したのは、このような条件付きにしないと、多くの類似検索対象の中に埋没して検索されてこなかったからである。このことは、エッセイであれ論文であれ、アクセス数の大小が「タイトル」で左右されることも如実に示していると言えよう。勿論、長期的あるいは最終的には、その内容であることは言うまでもないが。